

## M40a SoHO/EIT による高緯度ダークフィラメント及びその周辺の構造と変化の観測 (II)

吉楽 高夫, 内田 豊 (東京理科大学)

去年秋の学会では, 1998年5月17日に太陽の東のリム南緯45度あたりから現れ, 翌月の6月1日に不安定化し, 2日にイラプションを起こし, その後にCMEが観測されたダークフィラメントをSoHO/EIT, LASCO, H<sub>α</sub>, magnetogramのイメージを用いて調べた. 特にSoHO/EITの様々な波長のイメージを用いて調べた結果, ダークフィラメント周辺の磁場構造は, Uchida et al.1999でYohkoh dataによって高緯度ダークフィラメントに関して報告された事実(即ち, ダークフィラメントは従来言われてきたように二つの磁極域の間をつなぐ単純結合された磁気アーケードの上に, それ自身の重みでアーケードをへこませてその溝の支えられているというのではなく, 両側から来るループは中央の磁極反転線あたりの反対側に入れ子になって着地している四重極構造に対応した構造を持つこと)が再確認された. \ \ そこで今回は前回に確認された構造が, 違う日時の他の高緯度ダークフィラメントでも確認されるかをSoHO/EITの様々な波長域, magnetogram, H<sub>α</sub>のイメージを用いて調べた. SoHO/EITの195Åのイメージをunsharpenimagemasking methodを使用して調べた結果, 数例において四重極構造に対応した構造を前回同様に詳しく解析し確認することができたのでここに報告する.